



伊勢神宮内宮への正式参拝（昨年1月28日）

# 富の神明さま

発行所 三富富岡総鎮守  
 社報第10号  
 〒359-0002 所沢市中富1507  
 社務所電話 04-2943-1709  
 宮司宅電話 049-259-2228

## 新年のご挨拶

三富富岡総鎮守

神明社

平成二十七年の新春を迎へ、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

天皇・皇后両陛下におかれましては、おすこやかに新春をお迎えになられましたこと、慶賀の至りに存じ上げます。

氏子崇敬会の皆様方におかれましては、ご健勝にて新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

第六十二回式年遷宮で

ねっている象形であるため、新しい改革創造の歩は進めるけれど、まだまだ外の抵抗力が強いという意味です。それがゆえに、いかなる抵抗や紆余曲折を経て、それを進めていく気概を持っていくことが必要です。

未は、上の短い「一」と木から成っていて、「一」は木の上層、つまり枝葉の繁栄・繁茂を表しますが、枝葉が繁茂すると暗くなることから、未を「くらい」とも読みます。未は昧に通じますので、暗く曖昧にしてはいけない、要は「不昧」でなければならぬということ。こうしたことから今年の乙未は、

①いろいろな抵抗にあい②面倒なことが生い茂り③陰気になりがちで④従来の勢力と新しい勢力とが衝突することになるので、煩わしいことやよくない事を思い切って払い落としていかねばなりません。単純に明るくすることや、物事を不昧に持つていくことを心がけ、後ろめたい行動や言動を慎み、公明正大に日々生きることが大切だと言えます。

は、平成二十五年十月に皇大神宮・豊受大神宮の両正宮の遷御の儀が斎行され、昨秋から今年三月にかけての十二別宮遷御の儀をもって、すべての諸行事、祭典が完遂となります。

当社といたしましても昨年一月二十七日から二十九日にかけて伊勢神宮式年遷宮を記念した伊勢参宮を行いました。神宮式年遷宮の翌年は「お蔭年」と言われ、より大きなお蔭（御神威）を賜うことができ参拝する風習があります。多くの皆様のご参拝を願うところでございます。

神明の無辺のご加護をいただき、氏子崇敬者の皆様にとって、本年が幸多き年になりますことを心よりお祈り申し上げます。

## ★日本の神話 『倭健命』

埼玉県神社庁では、日本の神話を多くの方々に知っていただくようとして、毎年、神話カレンダーを作成しています。今年も『倭健命』です。『古事記』では、大倭を出発し、伊勢・尾張・相模・上総の逸話が記されています。『常陸国風土記』や関東地方だけでも二百か所以上の神社において、倭健命に関わる由緒を伝えています。



倭健命の一行の行く手を阻んだ荒海に、弟橘比売が海に身を投じて一行を無事に上総の国に渡らせ、東国平定を成し遂げることができたのでした。関東を「あずま」としたのは、吾が妻である弟橘比売を思う倭健命から命名されたといわれます。

走水には浦賀水道を望んで、倭健命と弟橘比売を祀る走水神社が鎮座し、この悲しくも美しいお話を今に伝えていきます。

※社務所にて頒布しています。ただし、部数に限りがございますのでご了承ください。

## 月の原日記

昨年は、大雪、集中豪雨、地震、火山の噴火等々天変地異の非常に多い年でした。

その都度、天皇・皇后両陛下には、最も相応しき機にご激励とお見舞いを賜り、被災地の人々に勇気と感動を与えられました。その光景は、皇室国家としてありがたき極みを感じるものでした。

ここに改めて、被災されました皆様にご心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、本年は大東亜戦争終戦七十周年の節目の年となります。先の大戦において祖国の安泰を願い、尊い命を捧げられた靖国神社・護国神社のご祭神に心から感謝を捧げ、御霊の平安を祈り奉ることは、国民共々行うべき務めではないかと思えます。一人でも多くの国民が、英霊の御心に触れて、わが日本の国柄に思いを致す機会となることを願うところであります。今年の干支は、乙未です。乙という文字は、草木の芽が曲がりく

# 新年のご挨拶



総代会会長  
本田 五郎

新年明けましておめでとうござ  
います。  
氏子並びに崇敬会の皆様には、  
健やかに新しい年をお迎えいた  
いたものとお慶び申し上げます。  
皆様方には日頃より神明社繁栄  
のためご尽力を賜り心より御礼申  
上げます。

一昨年の平成二十五年度の秋に悠  
久一三〇〇年の歴史を伝える第  
六十二回伊勢神宮式年遷宮が斎行  
されました。神明社でも氏子崇敬  
者の皆様方のご理解ご協力のもと  
伊勢神宮正式参拝を実施致しまし  
た。新しく造営された木の香りが  
ただよう御正殿天照大御神の前  
にて林伊佐雄宮司の玉串奉奠に合  
わせ、参加者全員で拝礼をしてま  
いりました。

さて、昨今の異常気象は目を覆  
うばかりです。3・11東日本大震  
災の復興も四年近くになります  
未だ道半ば、それに追い打ちをか  
けるように昨年は西日本の大雨に

よる広島土砂災害による七十数  
名の尊い命が失われました。また  
日本本土を襲った台風十八号十九  
号の被害、特に誰も考えたことも  
ない郷土芸能でも有名な木曾御嶽  
山の噴火による戦後最大の登山者  
による犠牲者に対し神社に係る者  
として心よりご冥福をお祈り申し  
上げます。  
新しき年を迎え今年こそは何事  
もない平穏で平和な暮らしができ  
るよう神明社氏子総代会一同、神  
社発展のため皆様と共に尽力して  
まいりますので皆様方のご指導ご  
鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



伊勢神宮内宮前で

## 平成二十六年総代会研修旅行 第六十二回伊勢神宮式年遷宮参拝

平成二十六年総代会研修旅行

第六十二回伊勢神宮式年遷宮の  
「遷御」の儀が平成二十五年十月  
に斎行されました。神宮式年遷宮  
は、天武天皇の思召しにより内宮  
外宮の両正宮が、その後に聖武天  
皇の思召しにより別宮（御正宮の「わ  
けみや」という意味で、御正宮について専  
いお宮のこと、皇大神宮（内宮）に十ヶ所、  
豊受大神宮（外宮）に四ヶ所の別宮があ  
ります。）までが斎行の対象になり、  
本年の三月に両正宮及び全別宮の  
式年遷宮が完遂します。  
式年遷宮の翌年を「お蔭年」と  
称して、より大きなお蔭<sup>かげどし</sup>御神威  
（神様の威徳）を賜るべく参拝す  
る風習があります。

昨年一月二十七日から二十九日  
にかけて、神明社氏子総代会で式  
年遷宮を記念した正式参拝を実  
施しました。六十名の氏子崇敬者  
の皆様方にご参加いただきました。  
初日は豊受大神宮をお祭りする外  
宮に、二日目は天照大御神をお祭  
りする内宮に正式参拝を行いました。  
御垣内では檜の香りも芳しい  
新社殿を前に身も心も清められ、

悠久の歴史の中で生かされている  
感動と存在の根源から湧き上がる  
ような大きな力をいただくことが  
できました。

なにこの おはしますかは  
知らねども かたじけなさに  
涙こぼるる

西行法師が伊勢神宮を参拝した  
時に詠んだとされるという歌です  
が、日本人の心のふるさとを強く  
感じました。

二日目は下呂温泉に宿泊し、直  
会に参加者一同親睦と交流を深め  
ることができました。三日目は飛  
騨の上三之町伝統的建造物群保存  
地区を視察し帰路につきました。

二十年に一度の伊勢神宮のご遷  
宮に正式参拝させていただき、参  
加者は神様のご神徳をいただくこ  
とができたものと思われます。多  
くの皆様方にもお蔭<sup>かげどし</sup>をされま  
すことを願ってやみません。参加  
された皆様方のご協力をいただき  
楽しい思い出に残る研修旅行とな  
りました。心より御礼申しあげま  
す。



正式参拝後の直会



伊勢おはらい町 赤福



上三之町伝統的建造物群保存地区